

救急車の適正利用について

近年の救急需要は、超高齢化の進行及び新型コロナウイルス感染症等の影響を受け、昨年は過去最多の救急出場件数を更新しました（令和4年中の救急出場件数：67,621件・対前年比：12,305件増加）。消防局では、これらの救急需要増加に対応するため、通常25隊の救急隊数に加え、必要に応じて臨時に救急隊を増隊し対応していますが、救急出場件数が増加し続けると、救急車が不足することが懸念されます。

つきましては、限りある搬送資源をより緊急性の高い事案に優先して投入できるよう、下記のとおり救急車の適正利用にご理解とご協力をお願いします。

記

1. 救急車以外の搬送手段の利用

症状が比較的安定している又は緊急性が低い場合には、自施設の車両や患者等搬送事業者等、救急車以外の搬送手段の利用をお願いします。

2. 救急安心センターおおさか「#7119」の活用

救急安心センターおおさか「#7119」は、突然の病気やケガで「救急車を呼んだ方がいいか」「病院に行った方がいいか」等、救急医療の電話相談窓口として、看護師が医師の支援体制のもと24時間・365日対応しています（容態などをお伺いして緊急性が高いと判断した場合は、直ちに救急車が出動します。）。是非、ご活用ください。

※ 意識がない等、緊急の場合は迷わずに119番通報してください。

救急車を呼ぶ？ 病院へ行く？
 こんなときは「救急安心センターおおさか」へ

7 1 1 9

つながらない場合は
こちらへお電話ください ☎ **06(6582)7119**

 突然の病気やケガで、今すぐ救急車を呼ぶか迷っている方からの救急医療相談に対応
 ※健康相談や現在かかっている病気の治療方法、医薬品のご相談はご遠慮ください。

 緊急性が高い場合は、ただちに救急車が出場

24時間 対応 **365日 対応**
 緊急の場合は **迷わず 119番へ**

3. ためらわず救急車を呼んでほしい症状（高齢者）

突然のこんな症状の時にはすぐ119番!!

高齢者



顔

- 顔半分が動きにくい、しびれる
- 笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくい
- 見える範囲が狭くなる
- 周りが二重に見える

頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 急にふらつき、立ってられない

胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 旅行などの後に痛み出した
- 痛む場所が移動する

おなか

- 突然の激しい腹痛
- 血を吐く

手・足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)

けいれん

- けいれんが止まらない

けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

飲み込み

- 物をのどにつまらせた

事故

- 交通事故や転落、転倒で強い衝撃を受けた

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合◎
高齢者は自覚症状が出にくい場合もありますので注意しましょう。

※迷ったら「かかりつけ医」に相談しましょう!

(お問合せ先)

救急課 TEL : 072-238-6049